



ヒモロタタミ (大 曲)

時代の変化とともに
新しいものづくりへ

畳は、長い年月をかけて日本人が築き上げた技術の結晶です。ジメジメした夏でも床に寝転がりながら快適に過ごせるだけでなく、暮らしの中の「風流」として日本の文化に根づいてきました。

その一方で、時代とともにライフスタイルが変化し、住宅から和室が減ってきています。さらにはコロナ禍をきっかけに、ここ数年で在宅での過ごし方が大きく変化しました。

ヒモロタタミでは、畳床や縄など、先代から伝わる稲わらの手工品を製造してきましたが、より多くの人が楽しめるよう、インターネットに合わせた縁なし畳や洋風の畳、地域の素材を生かしたオリジナルの小物など、新たな目線で製造に取り組んでいます。また人だけでなく、ペットなどの動物にも利用できる商品の開発にも力を入れています。

「畳は古い」と思われがちですが、様々な組み合わせやアイデアを取り入れることで、時代にあった新しいものが生み出されると考えています。

夏の午後、畳の上に寝転がりながら、うぶ毛を撫でられるような柔らかな風を感じてみませんか。



廃棄されるはずの
切れ端などを活用

畳の製造過程では、畳表の縁材や寸法調整による切れ端が多く発生します。また表替えを行うと、裏面がまだ使える状態で残ります。これらを廃棄せず有効活用できないかと考え、結果としてカーボンニュートラルにつながる取り組みへと発展しました。

畳表を除菌・裁断し、新しい畳縁を付け直すことで、「岩盤浴ゴザ」として仙北市の玉川温泉へ納品しています。玉川温泉は、全国からがん治療のために訪れる方や観光客が多く、持ち運びに便利な折りたたみ式タイプの開発にも取り組んでいます。



畳の新しい利用方法は、町民祭やロビー展、イベントなどでも紹介しています。